

再評価チェックリスト

1 事業概要

事業の名称	渋谷駅南口北側自由通路整備事業		評価該当要件	5年間継続	2回目
実施主体	渋谷区	事業所管部署	渋谷区 まちづくり推進部 渋谷駅中心五街区課		
都市計画決定(当初)	平成25年度	事業計画決定年度(当初)	平成25年度	事業期間: H25年度～H38年度	
都市計画決定(最新)	平成28年度	事業計画決定年度(最新)	平成25年度	事業期間: H25年度～H38年度	
事業箇所	渋谷区渋谷三丁目		事業規模	幅員:12m 長さ:50m	
事業概要	<p>日本有数のターミナル駅である渋谷駅周辺では、世界に開かれた先進的な業務機能、産業育成機能に加え、観光支援機能や宿泊機能など国際競争力強化に資する都市機能の集積と、交通結節機能の再編・強化により、情報発信拠点にふさわしい高い利便性を有し、わかりやすい快適な都市空間の形成を図っている。</p> <p>本事業は、国道246号の南側に新設される(仮称)渋谷駅南口橋上駅舎に接続し、3Fレベルの跨線橋として自由通路(歩行者専用通路)を整備することにより、JR線により生じていた東西方向の歩行者動線の分断を解消する。また、東西で接続する渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業と渋谷ストリーム(旧渋谷駅南街区)内の地区施設(歩行者専用通路)を通じて、西側は渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業で整備を行う都市計画道路補助18号線、東側は明治通りへつながる一連のストリートとして整備を行うことで、国道246号南側の回遊動線の起点となるものである。</p>				

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

<p>社会経済情勢等の変化(認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)</p> <p>(社会経済情勢の変化・変更内容)</p> <p>渋谷駅は、4社8路線の鉄道施設とともに日本有数の大規模バスターミナルを有しており、平成31年は1日約330万人が利用する大規模ターミナル駅である。</p> <p>本自由通路は、国道246号南側に新たに設置予定の(仮称)渋谷駅南口橋上駅舎及び東西の民間大規模再開発ビルと接続し、周辺市街地へ回遊を促す南側の玄関口となる。</p> <p>渋谷駅中心地区では、渋谷ヒカリエ・渋谷ストリーム・渋谷スクランブルスクエア(渋谷駅街区)・渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業の5つの街区の開発が進んでおり、これらが全て竣工する予定である令和9年度には、渋谷駅街区北側自由通路の歩行者通過交通量は以下のように増加する予測である。</p> <p>自由通路歩行者通過交通量(H29年度算出・R9年度時点推計):1,371人/ピーク時</p> <p>(関連計画の変更・変更内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都都市計画地区計画渋谷三丁目地区地区計画(平成26年6月都市計画決定) ⇒ 地区施設(歩行者専用通路9号) ・渋谷駅中心地区まちづくり指針2010 ⇒ 国道246号南側への交通結節機能拡大による駅アクセス性の向上 ・渋谷駅中心地区基盤整備方針 ⇒ 国道246号南側に、JR線を跨ぐ東西道路の整備 <p>(周辺施設の整備状況の変化・変更内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回評価時に工事中であった渋谷駅街区(東棟)、道玄坂一丁目駅前地区がそれぞれ渋谷スクランブルスクエア(渋谷駅街区)東棟、渋谷フクラスとして令和元年度に竣工している。 ・渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業が令和5年11月に竣工予定である。 <p>(関連する他事業等の進捗状況の変化・変更内容)</p> <p>前回評価時と比較し、自由通路に接続する周辺施設の各種事業が進行している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由通路が接続する大規模民間開発ビルの渋谷ストリームが平成30年度に竣工しており、開発地内において自由通路につながる歩行者専用通路(地区施設)がすでに供用開始されている。 ・自由通路が接続する大規模民間開発ビルの渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業も令和5年11月の竣工に合わせ、開発地内の自由通路に接続する歩行者専用通路(地区施設)が供用開始となる予定である。 <p>自由通路に沿って改札口を設ける計画となっている(仮称)渋谷駅南口橋上駅舎は、令和元年度に着工し、令和8年度の竣工を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同事業となっているJR渋谷駅改良工事については、平成27年度に工事着工し、埼京線ホーム移設及び山手線内回りホームの拡幅が行われた。竣工は平成38年度(令和8年度)の予定である。

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	14.5	(前回評価時: 17.1)
現在価値化総便益額(B)	541.3億円	現在価値化総費用額 37.3億円
歩行者の移動時間短縮便益	541.3億円	自由通路整備費 27.3億円
		維持管理費 10.0億円
定性的効果	<p>・新たに整備予定の(仮称)渋谷駅南口橋上駅舎に面する本自由通路は、南側のまちの玄関口として交通結節機能が強化され、歩行者の利便性・快適性が向上する。</p> <p>・国道246号線南側は、JR線によって約600mの区間に渡って東西のまちが分断されているが、本自由通路は隣接する開発ビルの地区施設(歩行者専用通路)も併せた一連のストリートとして整備され回遊性が向上し、また、退避経路として安全性・防災性が向上する。</p>	

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (R3年度末時点)			
	自由通路整備費		合計
全体事業費	2,728百万円		2,728百万円
執行済額	1,564百万円		1,564百万円
(執行率)	57.3%		57.3%
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
<p>・一定期間を要した背景</p> <p>自由通路整備の他、様々なプロジェクトが展開され周辺への影響も大きいことから再評価が必要と判断した。</p>			
事業の進捗状況・残事業の内容			
<p>・進捗率</p> <p>全体事業費:2,728百万円</p> <p>令和3年度末時点:1,564百万円</p> <p>令和3年度末時点進捗率:約57.4%</p> <p>・残事業</p> <p>令和5年11月に暫定供用開始予定。</p> <p>令和8年度の竣工に向け上屋設置の建築工事及び本設化工事を進めていく。</p>			

5 事業の進捗の見込みの視点

<p>事業の実施のめど、進捗の見通し等</p> <p>前回評価時は着工前だったが、令和元年度に着工し令和8年度の竣工に向け順調に進めている。</p> <p>令和5年11月の渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業の竣工に合わせ、暫定供用を開始する予定である。</p>
--

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

<p>コスト縮減や代替案立案等の可能性</p> <p>(新工法の採用など)</p> <p>JR軌道上の工事であり、施工もJRで行うため、営業線近接作業であることを考慮して最適な施工方法を探っていることから、縮減の可能性は極めて少ない。</p> <p>(事業手法、施設規模等の見直しの可能性)</p> <p>本自由通路はJR線両側の大規模民間開発ビルに接続することからビル施設と密接な調整を行っており、すでにビル事業は進捗していることから見直しの可能性は極めて少ない。</p> <p>その他、日々の事業執行におけるコスト縮減等の取組み</p> <p>渋谷駅桜丘口地区第一種市街地再開発事業、JR渋谷駅改良工事および(仮称)渋谷駅南口橋上駅舎と施行調整を行っており、効率の良い工事のため相互連携を図るよう調整を行っている。</p>

7 対応方針(原案)

総合評価	<p>本事業は地元と協議を重ねて作成した渋谷区の指針等において、国道246号によって分断されていた南側の交通結節機能強化及び鉄道によって分断されていた東西のまちの分断を解消する主要な歩行者動線として位置づけられており、地域住民の期待も大きく、来街者にとっての利便性も大幅に向上するものである。また、隣接する大規模民間開発ビル事業や新設される(仮称)渋谷駅南口橋上駅舎と接続し、ビル内の地区施設(歩行者専用通路)から周辺市街地への歩行者ネットワークが計画されており、事業の中止は国道246号南側のまちの歩行者動線全体に影響を及ぼすものである。</p> <p>以上のことから、本事業は「継続」とする。</p>
対応方針(原案)	継続